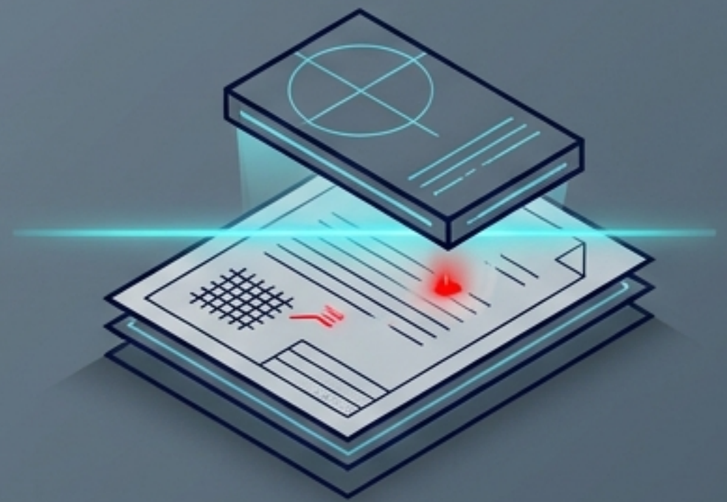
For: IP Strategy, Legal & Compliance Directors

中国特許実務におけるAI生成コンテンツ規制の深層と防衛策

南京市事案から読み解く「非正常出願」リスクと2026年以降のコンプライアンス準拠型ワークフロー



Gemini Notebook

2025年6月
南京市の衝撃

快速予備審査において、DeepSeek等の生成AIを用いた出願書類と研究開発証明材料の捏造が発覚。厳格なAI直接生成の排除通知が発出された。

国家レベルの
「知財品質防衛」

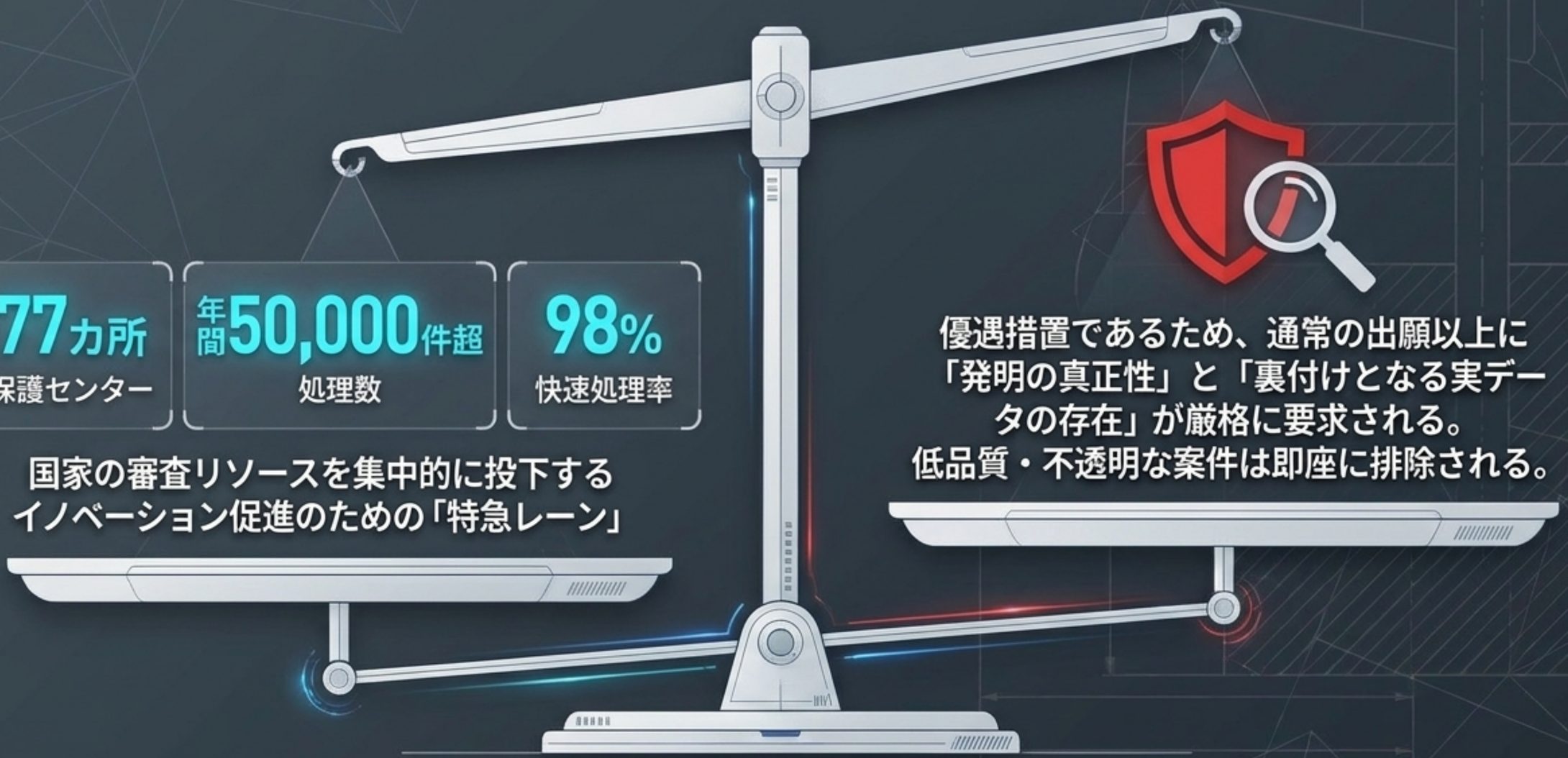
単なる地方ルールではない。局令第77号（非正常出願）や国家知識産権局（CNIPA）の方針と連動した、AIによる特許データベースの「情報汚染」に対する国家横断的な包囲網である。

「AI増幅型」
実務体制への移行

AIの完全排除ではなく、人間主導の「5段階コンプライアンス遵守型ワークフロー」への適応と、現地代理機構に対する厳格な監査が急務となる。

Gemini Notebook

中国「快速予備審査（預審）」の特異性



77カ所
保護センター

年間50,000件超
処理数

98%
快速処理率

国家の審査リソースを集中的に投下する
イノベーション促進のための「特急レーン」

優遇措置であるため、通常の出願以上に
「発明の真正性」と「裏付けとなる実データの存在」が厳格に要求される。
低品質・不透明な案件は即座に排除される。

Gemini Notebook

トリガー・イベント：南京市知産保護センターの介入

Red Alert

Mid-2025（発覚）

日常の予備審査業務において、複数の出願書類に「顕著な定型化・プログラム化の特徴」を検知。

Investigation（厳格な核査）

審査官による調査の結果、人間の発明ではなく大規模言語モデル（LLM）による直接生成であることが断定される。

June 4, 2025（公式通知発出）

『特許出願書類におけるAI直接生成コンテンツの使用禁止に関する通知』を策定。

Insight: 「一部の出願主体と代理機構」という表現が示す通り、単発のエラーではなく、AIを用いた粗製乱造的な出願の蔓延に対する『意図的な一斉摘発』である。

Gemini Notebook

コンプライアンスの「2大レッドライン」

①特許出願書類本体のAI直接生成禁止

明細書、特許請求の範囲、図面等は、真実の発明創造に基づき「人間の手（人工）」による執筆・編集が義務付けられる。✍️
定型化パターンの完全排除。⚠️

②研究開発証明材料のAIによる虚偽・模擬生成禁止

実験データ報告、開発ドキュメント等のAI生成を厳禁。「検証可能性」と「トレーサビリティ」が必須。🧪

🎯 **予備審査特有の急所：**AIを使って『存在しない実験データを架空生成し、整合性を偽装する』悪質な手口に対する最も強力な歯止め。

Gemini Notebook

エスカレーション型「3段階制裁構造」

1

Level 1: 基本違反

予備審査「不通過」
＋
『予備審査品質告知書』の発出。
早期審査権の喪失。

2

Level 2: 反復違反・悪質な偽装

予備審査サービス資格の
「一定期間停止」
＋
「ネガティブリスト」への登録。
企業出願戦略の凍結リスク。

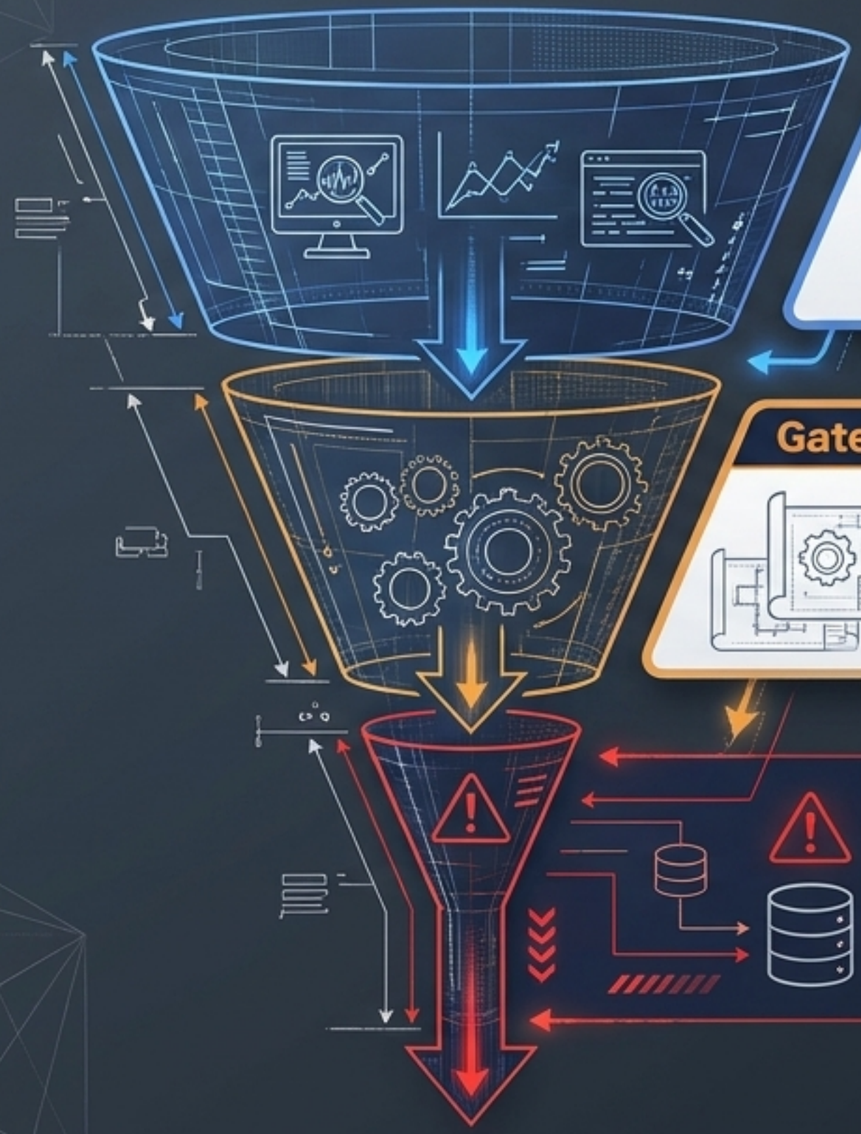
3

Level 3: 重大な信義誠実原則違反

行政主管部門への移送・報告
＋
行政処罰の勧告（専利法第20条・実施細則第11条違反）。罰金、業務停止、信用失墜リスト掲載。

Gemini Notebook

逃げ場のない「3層の検知フィルター」



Gate 1

アルゴリズム検知（専門テキスト検出）

AI検知ソフトによる構文的特徴、過度に均一な段落構成、
特定の接続詞の頻出パターンのスクリーニング。

Gate 2

専門家パネル評価
（技術的ハルシネーションの看破）



審査エキスパートが「形」の流暢さではなく、
「エンジニアリング上の実装可能性」や
部品間の物理的接続の矛盾を定性的に見抜く。

Gate 3

対審的トレーサビリティ要求
（生データ提出）

疑義が生じた箇所に対し、生データのログや実
験の失敗過程など「AIでは即座に捏造できない
二次資料」の提出を強制。

Gemini Notebook

局令第77号（非正常出願）とAI生成の法的連動マトリクス

局令第77号 第3条の各号（法的根拠）	AIが引き起こす具体的な違反行為
1号：同一性・単純組合せ	LLMテンプレートを用いた類似出願の**大量クローン生成**
2号：データの編造・偽造	AIによる**架空の実施例**、実験データ報告書の**捏造**（直撃リスク）
3号：コンピュータによる無作為生成	LLMによる**確率的・自動的な技術方案**の生成
4号：常理に反する技術	**ハルシネーション**による物理法則や工学常識を無視したクレーム作成
5号：実態なき研究開発	**ペーパーカンパニー**がAIを用いて**裏付けなし**に出願を量産する行為

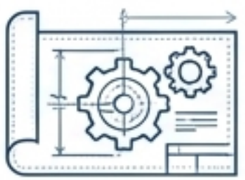
Gemini Notebook

知財エコシステムにおける国家横断的な包囲網

国家知財品質防衛
(National IP Quality Defense)

CNIPA
（審査機関）

審査官によるAI推論結果の直接使用（拒絶理由通知等の生成）を厳格に禁止。「AIはあくまで補助」。行政の公平性を担保。



⚠ 中華全国専利代理師協会
（代理人）

専利代理師に対し最終提出書類のAI直接生成を禁止。業界内の**コンプライアンス・レッドライン**。



科学技術部 MOST
（研究者）

研究資金申請でのAI直接生成禁止。使用時の標識付与とピアレビューでの機密保持を義務化。



Gemini Notebook

権利行使フェーズにおける致命的連鎖（ドミノリスク）

STAGE 1
(PRIMARY RISK)

予備審査のすり抜け

AI生成の架空データが審査官の目をすり抜け、特許が登録されてしまう。



STAGE 2
(SECONDARY RISK)

無効審判での被弾

他社からの無効審判において、出願過程の「虚偽（データ編造）」を指摘され、信義誠実原則違反として特許が無効化される。



STAGE 3
(TERTIARY & FATAL RISK)

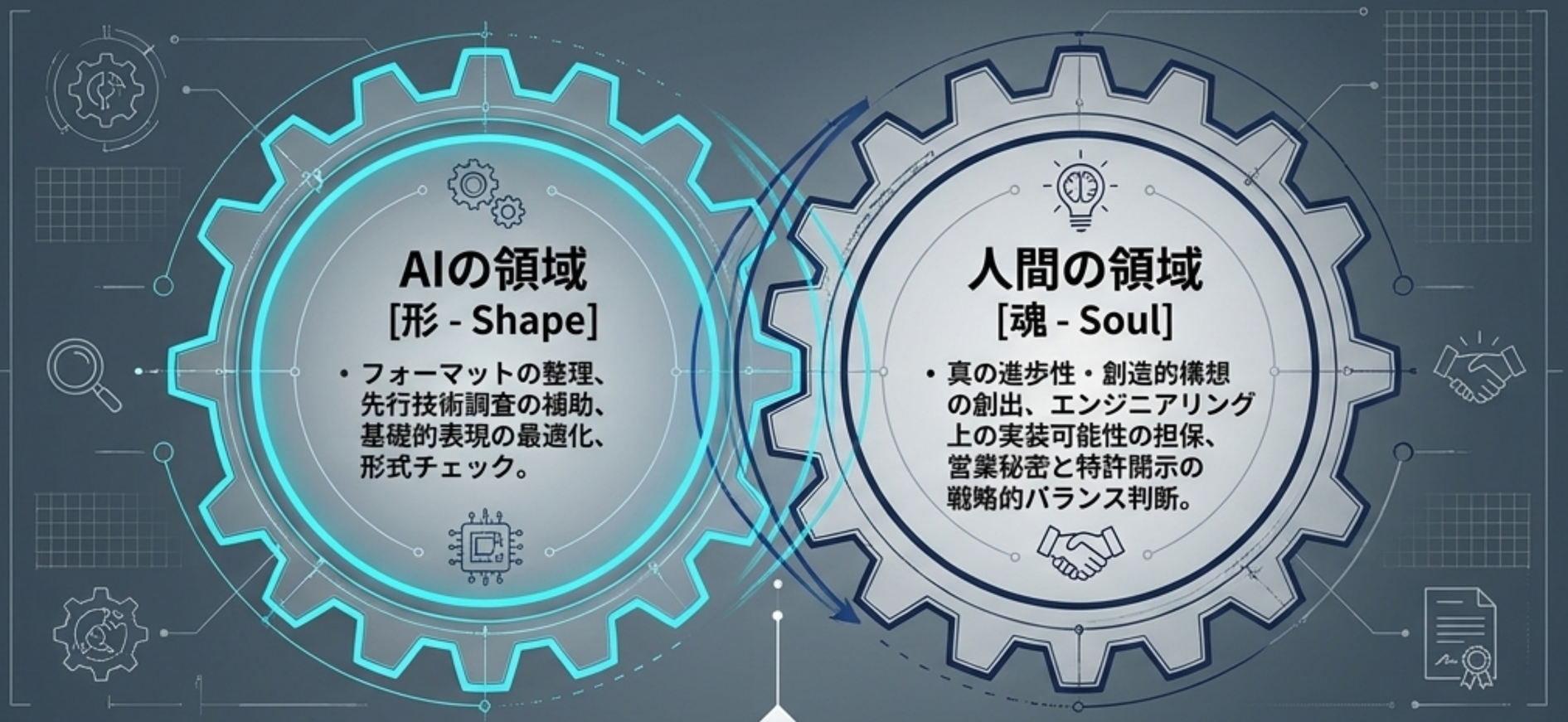
悪意訴訟反訴の巨額賠償

特許侵害訴訟を提起した場合、相手方から「悪意による特許権訴訟提起」の反訴を受け、企業存立を揺るがす多額の賠償責任を負う。



Gemini Notebook

パラダイムシフト：代替者から「増幅器」へ



【Consensus】産業実態から遊離したAIコンテンツは特許データベースの「情報汚染」を招く。
AIは人間の『代替』ではなく、専門能力を拡張する「増幅器（Amplifier）」でなければならない。

Gemini Notebook

知財実務家・代理機構の競争軸のシフト

	従来 (Past)	今後 (Future)
役割の定義	科学技術翻訳者 (技術メモを特許形式に変換)	イノベーション戦略顧問 (深層的解読と侵害リスク回避)
提供価値・競争軸	執筆コストの削減 (安く、速く)	特許の安全性とイノベーションの品質

【New Core Competencies】

① AI生成コンテンツのトレーサビリティの確保

② 顧客へのインフォームド・コンセント（AI利用の事前同意）

③ データセキュリティ保障（機密漏洩防止）

Gemini Notebook

コンプライアンス遵守型 5段階ワークフロー [Phase 1-3]

Step 1: 人間による発明点と境界の確定

Human Lead

「先行技術の課題」「改変ステップの内容」など、抽象的でない具体性を持つ「3文ルール」を人間が定義する。

↓

Step 2: 必須技術特徴の抽出と分離

Human Lead

人間が主導し、機械的構造、処理工程、データフローなど、モジュール間の相互作用を明確に区分・整理する。

↓

Step 3: AIによる初稿生成と『出典マーキング』

AI Assist & Human Verify

【重要防衛線】入力材料のみに基づきAIに初稿を書かせ、「人間由来の事実」と「AIの拡張提案」を明確に区別してマーキングさせる。ハルシネーションの混入を遮断。

Gemini Notebook

コンプライアンス遵守型 5段階ワークフロー [Phase 4-5]

Step 4: 完全な実施例の補完とハード・ソフト連携検証

Human Lead

実在する実験データに基づき、人間（技術者・代理人）が自らの手で少なくとも1つ以上の完全な具体的実施例を補完する。物理的・電気的接続関係や実行ロジックを精査。

↓

Step 5: クレーム起案とOA応答の最終確定

Expert Lead

クレームの論理的構築や、拒絶理由通知（OA）に対する権利解釈・補正限界の判断は、AIに任せず必ず専利代理師や知財部員（IPR）が定稿させる。

↓

⚠ 【実施細則第11条対策】

【実施細則第11条対策】無効審判リスクに備え、研究開発記録や実験データなどの「生データ」を即座に提示できる証拠保存体制の維持が必須。

Gemini Notebook

日本企業・外国出願人への戦略的提言

① 外部パートナーの厳格な監査

現地の委託先代理機構に対し、「最終提出書類・証明資料におけるAI直接生成の禁止」および「AI補助利用時の事前同意とトレーサビリティ」を委任契約に明文化し、管理する。



② 真正データの証拠保全

将来の予備審査での核査や無効審判に備え、人間の知的活動の証拠である「研究開発記録、実験データ、技術開示書」を体系的かつ安全に保存する体制を構築する。



③ 人間主導ガバナンスの確立

社内においてAIの「完全禁止」という非現実的アプローチではなく、「AIは増幅器である」という思想の下、人間主導・AI補助の明確なドラフティング・ワークフローを定着させる。



Gemini Notebook